

亀山市における子ども・子育ての切れ目のない支援体制 「TEAM SUKU-SUKU (チーム・すくすく)」について

亀山市総合保健福祉センター「あいあい」を拠点として展開する、子ども・子育てに関わる部署・機関の連携によるチーム支援体制を、市民に親しみをもって利用していただけるように、「TEAM SUKU-SUKU (チーム・すくすく)」と名付けました。

1 経緯

これまで、「子育て世代包括支援センター」(旧長寿健康課)と「子ども家庭総合支援拠点」(子ども未来課)は、それぞれ異なる課に所属しながら緊密に連携を取り合い、切れ目のない子ども・子育て支援を行ってまいりました。令和4年4月の機構改革により、この2つの中核部署の連携をさらに迅速化・強化するため、「子育て世代包括支援センター」と「子ども家庭総合支援拠点」を子ども未来課の所管として統一しました。

2 「TEAM SUKU-SUKU」の概要

「子育て世代包括支援センター」と「子ども家庭総合支援拠点」が中核となり、医療・保健・福祉・教育等の関係部署・機関との“顔の見える関係づくり”を大切にした支援ネットワークである「TEAM SUKU-SUKU」を展開し、多様化・複雑化した困難ケースにも対応します。

(1) 「子育て世代包括支援センター」(母子保健グループ)

主にポピュレーション・アプローチによる支援を担い、全ての女性(妊産婦・母)、子ども(胎児・新生児・乳幼児)とその家族が対象となります。

妊娠・出産・育児に関する手続き窓口のワン・ストップ化をしており、保健師等のていねいな相談・対話による“顔の見える支援者”として、対象者との信頼関係づくりに努めています。

育児相談や乳幼児健診等を通して特定妊婦、DV・虐待、発達の遅れなどのリスク・課題の早期発見を行い、将来の問題への予防的支援として妊娠・出産・産後・子育て期の相談支援・サポートを行います。

(2) 「子ども家庭総合支援拠点」(子ども支援グループ)

主にハイリスク・アプローチによる支援を担い、特定の疾患やDV・虐待、発達障がいなど、より手厚い支援や継続的・専門的な支援、関係者の調整等が必要と思われる女性(特定妊婦など)、子ども(18歳まで)及びその家族が対象となります。

ポピュレーション・アプローチの中で早期に発見したリスク及び問題を必要な支援に迅速につなげ、深刻・重大化することを防ぎます。

【参考】

「ネウボラ」と「TEAM SUKU-SUKU」との比較

	ネウボラ (フィンランド発祥の母子保健システム)	TEAM SUKU-SUKU (亀山市の子ども・子育ての支援体制)
母子保健の体制	担当保健師制(家族ごと)	複数の保健師でのチーム支援
対応窓口	各地区のネウボラ担当保健師	亀山市総合保健福祉センター あいあい
支援の対象	妊娠(胎児)期から就学期までの全ての子どもと母親・家族 (質の高い均一なサービス)	妊娠(胎児)期から子育て期を中心とする全ての世代の子どもとその家族が対象 (切れ目のない支援)
アプローチの力点	ポピュレーション・アプローチが中心	ポピュレーション・アプローチとハイリスク・アプローチの効果的な連携
虐待等への対応	ハイリスク・ケースへの予防的な取り組み	母子保健グループによる予防的な取り組みに加え、子ども支援グループ等と連携した専門的な相談・支援
関係機関との連携体制	担当保健師を中核とした多職種連携	相互の「顔が見える関係づくり」を大切にした医療・保健・福祉・教育の支援ネットワーク